

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol. 36 ◇◆
2011年9月1日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
 - ・ 国際犯罪学会 第16世界大会 公開シンポジウム
「科学的根拠に基づく子どもの被害防止 - 研究から実践へ -」参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
 - ・ 国の取組み情報
 - ・ イベント情報
 - ・ 見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
8月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード
25万6,215件

◆◆◆◆

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

とある生命保険会社が全国の20～59歳の男性・女性を対象にしたアンケート調査によると、今年の夏のイメージは、1位が節電で17.2%、2位が節約で10.5%、3位が我慢で9.6%だったとのこと。季節のイメージ一つとっても、その時々世相が色濃く反映されるものなのですね。

対象とテーマはガラッと変わりますが、警察庁により、全国の18歳未満の小学生(4年生～6年生)、中学生又は高校生の児童がいる保護者を対象に、児童が使用する携帯電話に係る利用環境の実態調査が行われ、結果が公表されました。それによると、携帯電話を小学生の約2割、中学生の約4割、高校生のほとんどが所有しており、特に、高校生は専用の携帯電話の所有率が95%を超えているとのこと。

学校種別のフィルタリングの利用率は、小学生約76%、中学生約67%、高校生約52%であり、上の学校種になるほど途中解除が増加している傾向があるとのこと。利用していない理由としては、「子どもを信用している」が47.4%と約半数に上り、次いで「特に必要を感じない」23.4%、「子どもからつけないでと頼まれた」9.7%が続きます。

この資料では、学校種別だけではなく、都道府県ごとの統計も見ることができます。項目によっては、都道府県によって差があるものもありました。

今回の結果を受けた今後の方針として、フィルタリングの利用率が低い等の調査結果が出た都道府県を中心に、フィルタリングの100%普及を目指し、事業者に対する指導・要請、保護者に対する啓発活動、関係機関・団体等と連携した広報啓発活動等を一層推進すると述べられています。

警察庁：児童が使用する携帯電話に係る利用環境実態調査結果について
<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen1/shonen20110825.pdf>

ここからは、今号の紹介です。当領域では、8月8日に、神戸国際会議場にて開催された国際犯罪学会 第16回世界大会において、公開シンポジウムを実施しました。当日の様子や講演内容などの詳細は後日領域WEBサイトに紹介させていただきますが、まずは今号のレポートにて、領域担当の目線から今回のシンポジウムについて紹介をいたします。ぜひご覧ください。

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。

まずは全国キャラバンの一環として開催されたプロジェクト関連のイベントと研修会のご報告から。

先般お伝えしておりました通り、7月30日に大阪府堺市で「フォーラム：東日本大震災に学ぶ 私たちの安全・安心『堺のまちをもっと安全に、もっと安心に！』」を開催しました。

このイベントは、「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトの実施者や領域アドバイザーの石附氏等が企画し、実現に至ったものです。

堺市登美丘地区のまちづくりの軌跡を辿ると共に、被災地等、他地域での取り組みも紹介。より総合的な視点で安心・安全なまちづくりに向けた議論が行われました。

「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトは、8月23日から3日間に渡り司法面接研修を実施しました。今回は、子どもの性的虐待の予防・対応・ケアに関する研究に取り組んだ厚生労働科学研究費補助金でのプロジェクトとの協働で開催。山本恒雄氏（日本子ども家庭総合研究所）、丸山恭子氏（カウンセリングルーム丸山）も加わった3名の講師で実施されました。

山本氏から「児童相談所における性的虐待対応」についての講義も行われ、参加者からは、従来のケアを目的とした臨床心理的アプローチとの違いに戸惑いながらも、新しい手法を身につけようと積極的に参加する姿が印象的でした。今回は他地域での山本氏の講義から梯子して来たという参加者や、他の地域での研修会の噂を耳にして参加された方等、着実に広まっている

ことを実感しました。

続いて、8月中に各プロジェクトで実施された会議等の活動についての報告です。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトは、8月23日に第2回全体調整会議を実施。同日午前中に日本建築学会大会にてプロジェクトについての発表も行いました。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトは、8月26日に日本教育学会第70回大会 公開シンポジウムⅡ「子どもの安全と健康」において、代表者の原田氏が講演しました。このシンポジウムには、元領域アドバイザーの藤川氏も登壇。

今回のテーマは「安全」と「健康」ということから、肥満研究のお話まで渡る幅広いお話でした。正直どう関連するのだろうと疑問に思っていましたが、GPSを用いた調査手法から、状況にアプローチすることで、意図しない状況を未然に防ぐ考え方など実は相互に共通していたり、関連していることが多数あることに驚かされました。

同プロジェクトは、9月17日の日本心理学会第75回大会シンポジウム「心理学におけるGISと空間情報科学の可能性」においても、実施者の方が登壇し、プロジェクトの成果を踏まえた講演を行うとのこと。
http://www.wdc-jp.biz/jpa/conf2011/contens/06_program/pdf/S008.pdf

プロジェクト関連のイベントをもう一つご紹介。「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクトは、9月11日に、社会情報学会合同研究大会において発表を行う予定です。
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/society.htm>

両イベントについて、ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。

領域では、冒頭でも紹介したように8月8日に国際犯罪学会 第16回世界大会において、公開シンポジウム「科学的根拠に基づく子どもの被害防止 - 研究から実践へ -」を開催しました。当日の様子については、今号のレポートをご参照ください。

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

●国際犯罪学会 第16回世界大会 公開シンポジウム
科学的根拠に基づく子どもの被害防止 - 研究から実践へ - 参加レポート
2011年8月8日（月） 神戸国際会議場 1階メインホール（兵庫県神戸市）

8月5日（金）から5日間にわたって兵庫県神戸市にて開催された「国際犯罪学会。犯罪学分野では世界最大規模の学会です。記念すべき日本初開催の今回は、42カ国・地域から1500名近い参加者が集い、本学会史上、最大の世界大会となったようです。

この機会に、当領域でも国際的に取り組みを発信しようと、公開シンポジウムを開催しました。詳細は、後日、領域ホームページ内の「トピックス」でご紹介させていただきますが、今回は、メルマガ読者の皆さまに一足早く当日の様子をお伝えします。

3時間にわたった今回のシンポジウム。前半は、当領域で取り組みを行う3プロジェクトから原田代表、山中代表、仲代表、そして今回はるばる英国よりお越し

いただいたRay Bull教授が講演を行いました。

3代表からは、具体的な問題解決を目指して問題に取り組む人々と協働しながら研究開発に取り組んでいるプロジェクトについてご講演いただきました。プロジェクトの詳細については、是非こちらをご覧ください。

- ・ 犯罪からの子どもの安全 HP 「研究開発プロジェクト」
<http://anzen-kodomo.jp/program/research/>

Bull教授からは、「面接者の訓練：英国における研究者と実務家の協働」についてご講演いただきました。英国では、1986年に取調べの録音・録画が立法化され、警察官は訓練を受けなければ面接ができないとのこと。

ご自身も、警察官と協働しながら、被疑者に対する面接や子どもを含めた被害者の面接技法に関する研究に尽力され、英国の面接法ガイドライン作成に貢献されました。現在も、警察署と協力しながら面接技法に関するアドバイスを実施すると共に、今年度は、警察署長協会が策定した、面接技法に関する国の新しい委員会のメンバーとしてもご活躍されています。

後半は、会場からの質問への回答を交えながら総合討論に入る構成で実施されました。会場からの質問では講演の内容をより深く探る質問が集まり、短い時間の中で質問をお寄せ下さった皆さまには感謝を申し上げます。残念ながら時間の都合上すべての質問にお答えすることが出来ずに申し訳ありませんでした。

今回のシンポジウムの副題にもあったように、各プロジェクトは、研究と実践をつなぎ (bridge)、具体的な問題解決に寄与することを目指しています。その過程では様々な課題が生じてきますが、総合討論では、登壇者からのリアルな声を聞くことが出来たのではないのでしょうか。

日々犯罪から子どもの安全を守ることを領域の中で考えながら、多くの課題を前に研究と実践とをつないでいく大変さも感じますが、3つのプロジェクトそれぞれが課題を乗り越えるべく、分野や職種を超えた連携を進めたり、自身の足でデータを集めたり、現場に足を運んだり、試行錯誤しながら実装を目指している姿に期待が高まります。

今回は、平日の開催にも関わらず、用意しておいた日本語の資料200部が全てなくなり、海外からの参加者もあり、受付スタッフが嬉しい悲鳴をあげるほどの賑わいでした。

講演の最後にBull教授より「50年前は、他の国はどのような研究をしているのか全く知らなかった。しかし、このようなシンポジウムを通じて他の地域でどういった研究がなされているのかが、わかるようになった。」とのコメントがあったように、世代や所属、国を超えて、科学的根拠に基づく子どもの被害防止を考える有意義な時間になったのではないのでしょうか。

幾つかのメディアでも当日の様子を掲載していただきましたが、今回のシンポジウムが、当領域の取り組みを1人でも多くの方に知っていただくきっかけとなれば、非常にうれしく思います。

終了後のアンケートには、「科学的根拠からのアプローチが現時点でどこまで実用性があるのかがより理解でき、また課題があるのがわかった。」(40代 男性)という声や、「研究から実践へというテーマのシンポジウムでしたので、できれば研究者サイドに加えて実務(実践する側)の方の話もあればよかったです。」(30代 女性)というご意見等、幅広い回答が寄せられています。

皆さまからの声を真摯に受け止め、当領域の残り1年を実りあるものにしていき
たいと思っております。

最後になりましたが、このシンポジウムにご登壇いただいた方々を始めとする
ご協力いただいた皆さま、そして当日会場にお越しいただいた皆さまに心より
感謝申し上げます。

シンポジウムの詳細は、後日掲載されるWEBページにて是非ご覧下さい。

(領域担当 S.T.)

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

【更新情報】

●国の取組み

児童ポルノ排除対策ワーキングチーム（第3回）の資料を掲載しました。
(内閣府)
<http://www8.cao.go.jp/youth/cp-taisaku/index.html>

取調べの可視化に関する省内勉強会の取りまとめ結果等の公表について
(法務省)
http://www.moj.go.jp/kentou/jimu/kentou01_00039.html

少年非行等の概要（平成23年上半期）（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/syounennhikoutounogaiyou2308.pdf>

子ども虐待による死亡事例等の検証結果（第7次報告概要）及び児童虐待相談
対応件数等（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001jij1.html>

児童虐待防止対策法令・指針類について（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv.html>

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成23年9月3日 「更生保護・福祉連携シンポジウム」
～福祉的視点から犯罪者の立ち直りを考える～
http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo03_00016.html

平成23年9月17日 日本心理学会第75回大会 シンポジウム
「心理学におけるGISと空間情報科学の可能性」

シンポジウム
http://www.wdc-jp.biz/jpa/conf2011/contents/06_program/pdf/S008.pdf
日本心理学会第75回大会
<http://www.wdc-jp.biz/jpa/conf2011/index.html>

原田プロジェクトの実施者が登壇されます。

平成23年9月18日 法と心理学者による実務家研修2
<http://www.soc.nii.ac.jp/jacp2/info/110401.pdf>

仲プロジェクトが後援しています。

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【見どころピックアップ!】

今回の見どころは、領域WEBサイトの調査・レポートに掲載した「平成22年度研究開発実施報告書」です。

この報告書は、各プロジェクトにおける平成22年度の研究開発の進捗を各プロジェクト自身でまとめたものです。それぞれのプロジェクトが、昨年度一年間にどのような取組みを行ったのかが具体的に記されています。

当領域で取組みを行うプロジェクトの実施期間は、最長で来年度の9月までです。終了の期限が近付きつつあることもあり、各プロジェクトとも成果の創出に向けた取組みが、大詰めになってきています。

具体的にはどのような取組みが行われたのが、ぜひご覧になってください。

平成22年度研究開発実施報告書
→ <http://anzen-kodomo.jp/preview/event/caravan/>

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆ 1位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集
<http://anzen-kodomo.jp//column/kyoudou/sympo04/yoko.pdf>
- 2位 プロジェクト関与者インタビュー
携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から伝えたい（ぐんま子どもセーフネット活動委員会）
http://anzen-kodomo.jp//pdf/ad_04.pdf
- 3位 プロジェクト関与者インタビュー
毎日が厳しい現実との戦い 少しでも子どもを救いたい
（北海道中央児童相談所）
<http://anzen-kodomo.jp//pdf/col18.pdf>

5. 今月のキーワード

「25万6,215件」

この数値は、警察庁が公表した資料「平成22年度における少年の補導及び保護の概況」に掲載されていた、平成22年の少年が主たる被害者となる刑法犯の認知件数です。前年に比べ1万9,107件（6.9%）減少したとのこと。この資料中の少年とは、20歳未満の者を指します。

一方で、福祉犯（児童に淫行をさせる行為のように、少年の心身に有害な影響を与え少年の福祉を害する犯罪）や児童虐待事件の被害少年（児童）数は、それぞれ、7,340人（前年比2.7%増）、362人（前年比5.7%増）と増加しているとのこと。

資料ではその他、非行・触法少年や児童虐待事件の検挙状況、少年相談に関するデータが掲載されています。

警察庁：平成22年度における少年の補導及び保護の概況
http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/hodouhogo_gaiyou_H22.pdf

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

- 発行日 2011年9月1日
- 発行元
（独）科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域
領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>
社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
